

2020.9.24 (木)
第11回例会
(通算 3605 回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「Together! 次世代へ共に築こうロータリー！」

第84代会長 舟木 博
副会長 土橋 賢一
幹事 荒井 剛
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2020-2021 年度
国際ロータリーテーマ



ロータリーは世界の扉を開く
2020-2021 年度
RI 会長 ホルガー・クナーク
第 2500 地区ガバナー
松田 英郎 (富良野 RC)

月間テーマ	基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友月間
本日のプログラム	ガバナー事務所慰労会 (担当: 理事会)
次週例会	講師例会「我が国の安全保障環境と陸上自衛隊の取り組み」(担当: プログラム委員会)

- ロータリーソング: 「それでこそロータリー」
- ソングリーダー: 吉田 英一君
- 会員数 99 名
- ビジター なし
- ゲスト なし

会長の時間

舟木 博会長



皆さん、こんばんは。1 カ月ほど前に新聞を賑わしていましたが、ロータリアンが頑張っただけで皆さんから寄付をいただいで進めているアフリカの野生ポリオが絶滅されました。

滅されました。

本日は、われわれロータリアンが属している国際ロータリー (R I) が 1980 年代からパートナー団体とともに取り組んでいる「ポリオ絶滅」についての話をさせていただきます。古いメンバーには「耳にタコ」でしょうが、入会の浅いメンバーに簡単にお話をさせていただきます。

『ポリオ』をいう病気は日本語では『小児まひ』と言われて、われわれの世代では身近な病気でした。ポリオは非常に感染力が強く、特に感染しやすいのは 5 歳以下の子どもです。「ポリオウイルス」は人から人へ感染し、もっとも多い感染は水を介した感染です。これによって子どもが体の「まひ」を起こしています。治療法はありませんが、安全なワクチン接種で予防することが可能です。

R I とそのパートナー団体は、これまで 25 億人以上の子どもにワクチンを投与する活動をしてきました。『ポリオワクチン』は 1952 年に開発され、1961

年には経口ワクチンができました。

わが国では、1950 年～ 1960 年の間、流行が起これり社会問題となっていました。その時、子ども連れのお母さんたちが子どもを守るために、厚生省が認可と輸入を渋っていたポリオワクチンの認可と緊急輸入を求めて全国から厚生省の前に押しかけて、警官がガードする扉をこじ開けて、ポリオワクチンの認可と緊急輸入を勝ち取りました。その後、ソ連から 100 万人分のワクチンとカナダから 300 万人分のワクチンを緊急輸入して、東京で接種したところ、その結果、瞬く間に沈静化し全国に普及しました。この時には、ワクチンの認可は厚生省が出しておらず、無許可で接種したと言われております。本当に母親の力は強いと思いました。事件から 40 年後の 2000 年 10 月、WHO による日本を含むアジア太平洋州の 37 カ国の「ポリオ根絶」を宣言いたしました。今回は 2020 年 8 月 25 日、アフリカ地域認定委員会・A R C C がアフリカ地域に「野生ポリオウイルスの根絶」を宣言しました。R I はその 1 日前に発表をしております。この時、R I ホルガー・クナーク会長は、「この快挙はポリオのない世界に向けた大きな一歩です。しかし戦いはまだ終わったわけではありません。世界のポリオ根絶を実現するには、ロータリアンの会員と寄付者からの支援、そして医療従事者による懸命な努力が必要とされております。この世界に残っている地域はアフガニスタンとパキスタンだけになりました。アフリカ諸国と同様に武装集団による危険地域でスタッフが殺害され

ることもあり、大変危険を伴う仕事となっております。現在、アフリカに残るのは、ワクチン由来のポリオウイルスだけになりました。これは安全と言われる経口ワクチンから変異した稀なもので、免疫を持つ少ない地域で広がる恐れもあります。WHOは、このような感染をナイジェリア・コンゴ・中央アジア・アンゴラで多数確認しております。アンゴラでは2001年にポリオは根絶しました。しかしながら2005年に外国からウイルスが持ち込まれる事例がありました。残念ながら人類は、ポリオウイルスのためにワクチン由来のポリオを含め調査とワクチン接種がこれからも欠かせないことが分かりました。アフリカの野生型ポリオ根絶を喜んでおりましたが、RI会長のメッセージの意味を理解することができました。

ちなみに、われわれメンバーは「ポリオプラス寄付金」として1年間1人3,240円(30\$。1ドル108円で換算した場合)を支払っております。この寄付が有効に使われることを願って挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

(点鐘)

■本日のプログラム■ ガバナー事務所慰労会

親睦活動委員会 委員長 佐藤 貴之 会員

皆さま、こんばんは。本日の司会を仰せつかりました親睦委員会の佐藤です。本日は『ガバナー事務所慰労例会』となっております。ガバナー事務所の閉鎖



に伴い吉田潤司パストガバナーをはじめ事務所に携わった皆さまで慰労する夜間例会となっております。また、今までお勤めいただきました三ツ石弥菜子さんが本日の例会が最後の出席となっております。皆さま、三ツ石さんに一言お声をかけていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会挨拶です。開会のご発声を舟木博会長よりお願いいたします。

開会挨拶 舟木 博会長

皆さん、こんばんは。本日は『ガバナー事務所慰労会』ということで、2018年8月30日より2020年6月30日までの長期にわたりわが吉田潤司直前ガバナーを支え続けた仕事が終了しようとしております。長い間、ガバナー事務所を支えたスタッフの皆さま一人一人に心から感謝とお礼を申し上げます。本当にご苦労さまでした。

思い起こせば、大成功に終わった「RI 2500 地区大会」や各分区の「67 クラブ訪問」、そして各種の地区事業はクラブメンバー全員の力がなければ達成できない素晴らしい出来事でした。メンバーを率いて活躍をした事務局の皆さんのこの経験は、次の釧路クラブからのガバナー輩出の大きな財産になると思います。皆さん、今宵は吉田ガバナー年度を思い出して、楽しい会話と美味しいお酒を楽しんでください。

そして、最後にガバナー事務所頑張っていたいただいた三ツ石さんに感謝を込めて挨拶をさせていただきます。

乾杯挨拶 小船井修一 パストガバナー

それでは、乾杯の音頭を取らせていただきますが、一言だけお話申し上げます。

舟木会長から「次のガバナーを釧路クラブから」というお話



でしたが、吉田ガバナー年度のお力によりまして「ガバナーの持ち回り」を地区のルールとして、地区規則という形で作りしました。そういう中で、4つのブロックの中で4年に1度回っていくということなのです。第7分区の場合は、北と釧路クラブとその他という形で順当に行けば12年後に誰かがガバナーになることをご覚悟いただいて、吉田年度で皆さまにお力をいただいたご経験を活かしていただくことをお願い申し上げたいと思います。

また、三ツ石さん、本当に2年間ありがとうございました。優秀なスタッフ・三ツ石さんのおかげで円滑に進んだことに感謝を申し上げ、皆さまで「お疲れさまでした」と、2年間のガバナー事務所が終わるというお祝いで乾杯をさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

吉田 潤司パストガバナー

皆さん、こんばんは。懐かしい写真を見て、本当にいろいろなことがあったのだなと思いました。写真の中で、私は何となくつつがなく順調にやったのですけ



れど、地区大会で大失敗をしたことを皆さん知っているといますけれど、点鐘をした時に空振りをしてしまった「あの写真」が出て来るのではないかと頑張って心配をしましたがけれど、出て来なくてホッとしており

ます。

私がガバナーノミニー・デジグネートとなりましたのは、2015年の12月ですから、それから約3年半、地区のクラブの皆さまには、随分とお世話になりました。またガバナー事務所ができて約2年間、わがままな私によく木下君も付いて来てくれたと思います。ウチの奥さんに話したら「アンタ、木下さんが『辞める』と言うのではないの」というくらい、私もいろいろと言っていましたけれど、本当にお世話になってありがとうございました。

また、多くの役員の方にもたくさんお世話になって、三ツ石さんも一期一会でいつか分かれなければいけないのですけれども。私は今日事務所へ行きまして「三ツ石さん、外で会ったら『どこかでお会いしましたよね』とだけは言わないでちょうだい」と言っておきました。これも疑問符が付くかもしれないですけど。でも後半、コロナがありました。私は同期のガバナーの中では大変幸せで、ほとんどの行事を順調にできました。「地区大会」も全部できました。地区大会ができなかったガバナーは本当にかわいそうだと思います。

また、「IM」ができなかったことで、私も残念だったですけど2500地区のガバナー補佐の皆さまは大変残念だったのではないかと考えています。これは同情というわけではありませんけれども、本当に私自身も申し訳ないという気持ちです。

コロナがありまして、順調に終われたような、終わらないような感じでしたけれど、今日はバッジをたくさん付けて来ました。これが私の地区のバッジです。これはもう二度と付けることはない物ですから今日あえて持って来ました。こっちが今年「ロータリー100年」のです。今年の10月に東京で大会がある予定だったのですけれど、先ほど小船井さんに聞きましたら「来年に1年延びた」ということですから、それもまた楽しみにしております。

そこで、ガバナーとはなにかを皆さまにお話をします。私を誰かに紹介をする人は「この人がいま一番偉い人だよ」とよく言うのですけれど、偉くもなんでもないのです。ここだけは皆さん誤解をしないでください。

ガバナーというのは、RIの理事会の意向を正しく地区に伝えて指導し、地区を繁栄させるために指導・助言をする係で、会社でいうと監査役と営業推進部を1人の人間が請け負って、2500地区67支店を回るような役割で、決して偉くないものでごくごく普通で、また7月1日からはごく普通の人に戻りました。

ガバナーになるにはどんな条件がいるのかといいますと、ガバナーノミニー・デジグネートに立候補する時の条件としては、ロータリアンとして瑕疵がないことです。いわゆる人物的にも、私がどうかは別としても

そのように言われています。それから会長経験者であること。ひとつ、または複数のクラブに7年間在籍していればガバナーノミニーの資格はあります。決してガバナー補佐をやるという条件はありません。ですから釧路クラブにいる歴代の会長は皆さんガバナー候補です。それは、先ほど小船井さんが言いましたとおり、これは12年後か、下手をすると6年後には釧路クラブから出さなければなりません。

私はパストガバナーに「ガバナーになると、全く別の世界が見られる」と言われました。確かに別の世界がありました。やっぱり素晴らしい世界があるなと思いました。この世界をぜひ味わっていただきたいと思います。世界に五百数十人のガバナーがいます。そして友だちにもなります。いろいろなことを知ります。ロータリーの偉大さを知ることできます。そういうことで、指名をされましたらぜひ受けていただきたいと思います。

釧路クラブにガバナーの結構複雑な歴史がありますので、かいつまんでお話をします。釧路クラブのチャーターメンバーに滝本庄蔵さんという内科医の人がいました。清水先生はご存じかと思いますけれども、この方が釧路クラブから札幌ロータリーに転籍されてからガバナーになりました。釧路クラブの関係者としては、この方が第1号のガバナーだったのです。この時はまだ東北・北海道が1地区だったですから、かなり広い地区でのガバナーでなかなかできることではなかったです。

その後、1961年に丸三両角の社長の両角さんがガバナーになりました。この後に釧路北クラブに転籍をされていると思います。その後、1965年に嵯峨晃さんがガバナーになっております。このあたりまで順調にきていますけれども、この後から釧路クラブのガバナーに対する苦難の歴史が少しあるのです。

1977年に釧路トヨタの社長だった柳田一さんがガバナーに指名されました。でも、この方が病気で辞退しました。肺ガンになって亡くなってしまいました。その後1981年に清水先生がガバナーになりました。ですから嵯峨さんがガバナーになってから16年もかかりましたけれども、途中で柳田さんがガバナーになる予定だった。その後、釧路クラブからガバナーを出そうということで、1986年に釧路ガスの両角靖二さんがガバナーノミニーに指名をされました。けれども、奥様が病気になって残念ながらガバナーを辞退しました。2002年にいよいよ待望の小船井さんがガバナーになりました。これは亡くなりましたかわぐちさんが「釧路クラブからガバナーを出さなきゃならない」ということで、私もこの年はなんとかしよう。ということで小船井さんをガバナーになりました。

その後2011年にお医者さんの久島先生がガバナーに立候補しました。お医者さんがガバナーになるため

には、代診の絡みが大変だったので、全てを準備して、ガバナー事務所にも問い合わせたら「誰も立候補する人がいない。大丈夫だ」ということで出たのですけれども、残念ながら横やりが入り落選しました。そういうことがあったのです。その後2014年に私も一度立候補をしましたけれども、私はいろいろな事情があって「ダメだ」と言われました。普通、一度落ちた人は次にやる人がいないのです。でも私はやってしまいました。

ということで、釧路クラブはガバナーが少ないようでも本当はガバナー候補がたくさんいる宝庫だったのです。先ほどお話ししたとおり会長経験者がたくさんいますし、どなたがやっても素晴らしいガバナーになれると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

私がガバナーになった経緯については、後ほど五明さんからお話があると思います。そもそもは、清水先生と小船井さんから「吉田さんはもうガバナーの資格十分だね」ということで、暗示はかけられていたけれど、私は「年齢が年齢だから私はもうできませんよ」と適当に逃げていたのです。逃げ切れたと思っていたら、ある日突然、北クラブの足立先生から「吉田さん、話がある。5時に病院に来てくれ」言われました。私は仕事をしていたから、また私の会社の人間がなにか事件を起こしたのかと思って行きましたら、病院には患者さんがたくさんいて、応接間で待っていたら先生が来て、「吉田君ね、もう清水先生と小船井さんに『ガバナーをやってもらおう』と言ってあるから、これで決まったからね」と。「先生、待ってください」と言ったら、先生は「患者が待っているからダメだ」と言ってすっと降りて行きました。私はしょうがないから家へ帰り、明日の朝、先生にとりあえず断ろうと思っていました。翌朝、お電話をしたら先生は出張していませんでした。

そうこうしているうちに、私を説得に来た五明さん・白幡さん・小船井さん・青田君から攻められました。なんとか上手いことを言って逃げていましたけれども、家にまで来られて、参ったなど。普通、ガバナーになる時は、奥さんがだいたい反対をするものです。でもウチの女房が「あんた、最近少しボケて来ているから、ボケを防止するために何か仕事をしなさい。受ければいいでしょう」と言われてしまって、ということがありまして、今日まで来ました。

でも、私はガバナーにさせてもらって本当にありがたかったと思います。ボケ防止にもなりましたけれど、北海道も随分いろいろな楽しい所をたくさん見て来ましたし、多くのクラブに歓迎もされてきました。好き放題のことも話してきました。公式訪問では皆さんに随分お世話になりました。私が唯一自慢できることは、公式訪問67クラブを3カ月間回って雨が降った日が

1日もなかったことです。ものの見事に晴れまして、どこへ行きますとも、利尻富士も見ましたけれど、「こんなにきれいなことはないですよ」と言われました。そのようなこともありまして楽しかったと思っております。

いまは、この楽しかったことを財産として、私1人が楽しんではいけないものですから、これからも少しクラブの皆さまにお返しができるお返しをしたいと思います。

皆さん、本当に3年間ありがとうございました。

五明 正吉地区事務局長

こんばんは。ガバナー事務局の事務局長として約2年近くにわたってやってきましたけれども、事務局長としては、大したことはやっていないのです。「公式訪問」が終わった時点で「私の仕事は終わり」というような感覚でおりましたので、ほとんど半年ぐらひは、もうあまりすることがなかったのですけれど。



小船井パストガバナーの年のガバナー事務所は、小川ガバナー補佐がおりまして、ガバナーとガバナー補佐をウチのクラブで1年に2人出していました。それで、私と白幡さんと2人で小川ガバナー補佐のガバナー補佐幹事をやっていて、ガバナーの公式訪問などには立ち会っていませんでした。今回、あまりよく分からない状況でお受けをしたのです。

7月から始まった67クラブの公式訪問、勝手に私が「ここにはあなたが何泊何日で行って来なさい」、「ここにはあなたが何泊何日で行って来なさい」と半強制的なお願いにも文句も言わずに、遠くは稚内・礼文まで1週間近く行っていただいた方もいました。皆さんはそれぞれのクラブを訪問しながら良い思い出も作って来たと思いますけれども、吉田ガバナーのためにそれぞれの地区を回りながら無事に公式訪問は終えてまいりました。

ウチのクラブの会員の皆さんにはいろいろ勝手なことを言って、怒鳴ったりもしましたけれども、無事にこのガバナー事務所も終えることができそうです。そういう中で、三ツ石さんにも長い間、おんぶに抱っこという状況ですけれども、お世話になりましてありがとうございました。

無事にガバナー補佐事務局も終えられそうです。皆さま方のご協力に感謝をしながら、ありがとうございましたということで、私のお礼に代えさせていただきます。

どうもありがとうございました。

白幡 博地区企画戦略局長



はい、局長です。でも、全然記憶がございません。なにを企画したのかも覚えておりません。ただ今日、吉田さんが笑顔でお話をしている姿を見まして、「ああ、やって良かった」という一言で、嬉しく思います。また、三ツ石さん、本当にお世話になりました。ありがとうございます。そしてクラブの皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

1点だけ私、お話をさせてもらえれば。吉田潤司さんが、ガバナーをお受けになる時にいろいろありまして、ヤンチャな小船井さんが一生懸命われわれを説得し、そして地区のガバナーの皆さんを政治力というのでしょうか、そういう面では、清水先生、小船井さん、お二人のバスターガバナーのご尽力があって吉田潤司さんが誕生したと思います。

また、思い出すとプリンスホテルだったと思いますが、青田さん、川合さん、本当に当日お世話になりました。かなり喧々諤々とやりまして、先輩方が思いを1つにして誕生したのが吉田潤司ガバナーだと私は思います。

そういう意味では「地区大会」「PETS・協議会」と、われわれがいろいろな形で経験をしたことを吉田潤司さんがこのように言っていました。「クラブに世話になった。その恩返しをなんとかしたい。それがこのガバナーを受けて、クラブ全体で、みんなで大会をしっかり行うこと。そしてそれを会員皆さんに残したい」と、そんな思いを当時、話していたことを思い出しました。本当に潤司さん、ありがとうございました。

そして、清水先生、小船井さん、本当にご協力ありがとうございました。以上で終わります。

伊貝 正志地区ロータリーの友委員長



皆さん、こんばんは。私は『ガバナー月信』担当ということで、木下幹事からの「月信の苦労話を話して」という仰せで、時間が3分でそんなに多くは話せませんけれど、これからちょっと思い起こしながら話してみます。

ガバナー月信は、皆さんどれほど購読していただいたか、いつも疑問に思いながら作っていました。1号～14号まで14回発行をしまして、この14号のトータルページが表紙もカウントして384ページのボリュームになりました。これをどれくらいの厚さか計って見ましたら1センチ6ミリ、結構なボリュームの月信のファイルになっております。

ガバナー月信ですから当然ガバナーのメッセージが冒頭にきて、毎月吉田ガバナーのメッセージから始まるページ建てです。後半の3月ぐらいからコロナの関係で各委員会の行事が中止になったり、8カ所の分区の「IM」が全て中止になったり、予定をしていた原稿が入って来ない中で、吉田潤司ガバナーに「特別寄稿で、もう1ページ書いてもらえませんか」というお願いをしたら快く承諾していただき、常に期日前に原稿を寄せていただき助かったことをありがたく思っております。

小船井バスターガバナーからは「規定審議会」のロータリーアクトがわれわれの仲間になるような、なかなか知り得ない原稿を寄せていただいて「釧路ロータリークラブが出す月信だな」という雰囲気を出していただいて感謝しております。

それから多くの方々にお世話になりました中では「ガバナー公式訪問レポート」。これが7月10日帯広ロータリークラブを皮切りに67クラブを釧路ロータリークラブの35名の方が随行されて、このレポートに協力いただいた方が24名という大勢の方にお世話になりました。その中で、佐藤貴之君が一番多い7カ所の原稿提供に感謝申し上げます。

それから訪問をした時に写真を撮ってもらうお願いをしていて、この写真の整理を中島副幹事に担当をしていただきました。なかなか知らない人たちの写真なので、顔写真とクラブが間違っただけだと神経を使いやりましたが、なんとか無事に終えることができました。

原稿の締め切り日を2・3名の方が少し過ぎたこともありましたが、ほとんどの方が期日内に原稿を提出していただき非常に嬉しく思っております。

後半は、コロナの関係で「IM」が中止になり、8分区のガバナー補佐の方たちは、全て段取りが整った状態での中止ですから、なんとかこの人たちの苦労を紙面の上で「紙上IM」のコーナーを設けて、「もし、やっていたらこんなIMになりましたよ」を想定して原稿を寄せていただきました。このような工夫をしながらなんとかページを確保すべき努力をしたつもりであります。

月信は偶数のページで終わらなければなりません。奇数では白いページが出てしまうので、原稿を依頼した予定したページと違って奇数になることが毎回ありまして、その時は、活字を大きくしてページを伸ばした

り、逆に活字を小さくしてページを縮めたりをやりながら偶数のページで終わるようにレイアウト構成を常に考えました。そのことが毎回、苦勞と言えど苦勞だったかと思えます。

写真は小野寺俊君からS Lの写真をお借りいたしました。第2号でS Lの勇壮な写真を使わせてもらいました。どうもありがとうございます。

三ツ石さんには、各原稿依頼を頼んでいただいて、これがまた事務処理が素晴らしく、各依頼者も三ツ石さんの言うことを聞いてもらえたのか、大変助かりました。

地区の全体情報では、木下地区幹事からいろいろ情報を提供していただいたことに感謝申し上げます。

最後、組み上がったレイアウトや文字構成に関しては、毎回、樋口地区副幹事に構成・レイアウトをチェックする作業をしていただきました。これもまた感謝申し上げます。

そのように多くの方のご協力を得て、なんとか滞りなく14回の発行を終えましたことを高い位置からではございますけれど、お礼を申し上げて報告とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

木下 正明地区幹事



皆さん、こんばんは。ガバナー、本当にお疲れさまでございました。先ほどご挨拶でおっしゃっていましたが、少し年齢が高いガバナーですけれども、元気

いっぱいこなしていただきまして、先の釧路ロータリークラブのガバナーの歴史に繋げていただいたのかと思います。

私からは、本当に皆さんにお手伝いいただいたおかげでガバナーを男にさせていただきました。ほんとうにありがとうございます。以上でございます。

工藤 彦夫地区副幹事



私はは、ホームページを担当させていただきました。旭川の合同事務所ができる時点から、東堂ガバナーから始まったホームページがあるのです。情報も少

ないし、タイムリーじゃない情報で、木下さんに言われて、まずタイムリーな情報を皆さんに提供するこ

とを考えて、あと「地区はなにをやっているか」を中心にやらせてもらいました。結局、1年半で26,000件のアクセスがありました。1人あたり10回ぐらい見ているということで、大変嬉しく思います。今年度の松田ガバナーも昔のものを踏襲しないで作っていました。

僕がやった2つ目は、先ほどの鶴のマークのバッジを作りました。吉田さんに何回も怒られながら作って、ダメだ。ダメだ。ダメだ。ダメだと言いながら5回訂正しながらバッジを作りました。デキは大変良いと思っています、赤地で。ただバランスが悪くて、ピンの位置が悪くてすぐひっくり返ってしまうのです。そこは私のせいではありません。それはオクトンのせいです。

2番目にやったことは、今日持ってきました「入会のための」。この土台は誰かが作ったのですけれども、吉田さんに「それを直してくれ」と言われて、吉田さんに「急ぐ？」と聞いたら「急がない。ゆっくりやっていいよ」と。次の日「まだできない？」と電話がきていましたけれども、とにかく僕も勉強をしてこれを作りました。

どうしても入れたかった文章は「退会の自由」。「健康の問題や経営の状況などによって退会を避けられない場合の退会は自由。それを妨げることはありません」と僕は入れたかったのですけれども。新入会員の皆さん、釧路クラブにはこれはないですから辞められません。

次にやったことは、ハーバートJ. テーラーの「四つのテスト」です。本当はロータリーのマークをホログラムにしたかったのですけれども、なかなか予算がなくて。ただこれは少しちょっと横にするとロータリーのマークが出るという、明るいところで見たら分からないのですけれど暗いところで見たら出たり出なかったりする。そういう物ものですが、暗いところで見ると文章が読めないという残念な品物です。

今日は、三ツ石さんが「さようなら」ということです。時々、事務所へ行くとキーボードをバタバタバタと、キーボードが1年半～2年よく持ったくらい。それでいろいろな頼みごともあった。本当に能力がある方で、素晴らしい対応をしていただきました。

三ツ石さん、「昔に勤めていた会社に三ツ石さんみたいな人がいたら上司や支店長・支社長はどれだけ優秀なのだろう」と、思いました。

この場を借りて、3月12日に「IM」があります。石田博司第7分区ガバナー補佐の下で3月12日やります。実行委員長・五明正吉、末広の暴れん坊チームです。プロレス界で言ったら、ブッチャーとザ・シークが組んだような、反則あり凶器ありのチームですけれども頑張っていたきたいと思います。

木下さんは「吉田さんを男にしてください」を何度も

何度も、出る度に「男にしてください」とは言いません。十分に2人は男です。お釣りが来るぐらい男です。生々しいくらい男です所以说いません。

けれども皆さま、僕が良いと思うところは、釧路ロータリーは個人の能力が高いということ、達成度が高いということ、チームワークが良いということで、ぜひとも3月12日に向けて皆さんのお力をまた借りたいと思います。

それで、最後に吉田パストガバナーにおかれましては、ぜひともお身体に注意してこれからのご活躍をご期待しております。

今日は、どうもありがとうございました。

樋口 貴広副幹事



皆さん、こんばんは。私が喋ると本当は、例会の5～6回分を喋られるのですが今日には時間がなくて、ほんの一部だけお話ししたいと思います。

まずは、クラブの皆さまは大変ご協力いただいて本当にありがたく思っております。本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

特にお世話になったのが小船井パストガバナー。ガバナー事務所は分からないことだらけで、どうして良いか言葉の意味も全く分からない中で、いろいろ教えてくださいましたのが小船井パストガバナーでした。それと、いまお話をしていた工藤さん。「こういうことをやりたい」「こういうものを作りたい」といった時に、すぐやってくれたのが工藤さんでした。それと、ここまで全く名前が出ていませんでしたが、横田君。いまもまだ決算の途中なのですが、本当に会計の面では横田君にはお世話になっています。それで、私がやっぱり感謝したいのが三ツ石さんを紹介してくれた中村君。本当に良い人を紹介していただいたと思っております。本当に皆さんありがとうございました。

皆さん、来週30日でガバナー事務所を閉所して、三ツ石さんがいなくなって、仕事も全部終わるのだろうと思っているかもしれませんが、「地区大会」まで仕事はあります。この後、三ツ石さんいなくなって私1人でいろいろやらなければいけない仕事があって、地区大会自体をやるかどうか分からないですけど、尾越さんが出番の決算報告や吉田年度のいろいろな地区の表彰事項があります。それをやらなければいけないので、私の仕事はまだまだ続きますので、杉村さんには来年の役職は一切当てないでいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

その地区大会の時には、スライドの作成・司会・誘

導などいろいろお手伝いをさせていただかなければいけないのです。例えば、小野寺君に司会を頼もうかと思っていますし、得地さんにスライドを作ってもらおうか、佐藤君には誘導を頼もうかと思っていますので、皆さんそれまでガバナー事務局を忘れずに、お願いをした時は断らずによろしくお願ひいたします。

なにはともあれ26カ月になります。本当に皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。

花束贈呈

(三ツ石さんへ花束贈呈)

ガバナー事務所 事務局員 三ツ石弥菜子さん



皆さん、こんばんは。今日はこのような素晴らしい花束までいただいてどうもありがとうございました。

私がこのガバナー事務所でお世話になっ

たのが、2018年の8月からです。当初、ロータリーのお仕事ということで、ロータリーって社長たちの集まりみたいなイメージしかなくて、そんな偉い人たちばかりの中で働いてどんな感じなのだろうと、ちょっと想像も付かなかったのですが、吉田直前ガバナーをはじめ、木下さん、樋口さんにサポートをしていただき、例会でも皆さん気さくにお話をかけてくださってとても楽しく過ごすことができました。

最初の1カ月～2カ月は、木下さんから「これ、作っておいて」とか「いろいろメールの登録をしておいて」などいろいろ指示をもらってやっていたけれど

も、それが終わると何もすることがなくなって、事務所にもポツンと1人で。「この先どうなるのだろう。この毎日が続くのだろうか」とか少し

心配でしたけれども、少しずつ地区の役員を決める、ガバナー補佐会議などが入り動き始めると、他のクラブの方々と連絡をとったり、メールのやり取りなどをするようになって、段々仕事の流れが少し分かってきたかな、みたいに。

「地区チーム研修セミナー」があって、そこで釧路クラブの皆さんにもお手伝いいただいて無事に終わり、「P E T S・地区協議会」「公式訪問」「地区大会」と本当に皆さんの助けがあったおかげで大きなトラブルもなく無事に終わることができたと思います。



年が明けてコロナになって、本当は私も「IM7分区」に参加をさせていただく予定でしたが、それも中止になってIMが幻になってしまったことが残念に思います。潤司さんも韓国、「国際大会」でハワイなどに行く予定がありましたが、それも全部中止になってしまいました。最後はなにもない状態で、ガバナー年度が終了してしまっただけで、少し寂しい思いはありましたけれども、先ほど吉田直前ガバナーもおっしゃっていたとおり地区大会まで無事に大きな行事は行うことができたので、一応満足、充実した1年間を送れたと思います。

皆さん、私の至らない点も多々あったと思いますけれども、いつも温かく接していただいてありがとうございました。吉田さん・木下さん・樋口さん、本当にいつも支えていただいて感謝しております。

あと、ひとりで分からないことがあった時にいつも隣の青島さんに助けていただきました。本当に隣にいてくれて心強かったです。どうもありがとうございました。

これからも釧路クラブの皆さんのご活躍をお祈りしております。2年間どうもありがとうございました。

(手に手つないで)

中締め挨拶 邵 龍珍 パスト会長

皆さん、お疲れさまでございます。本当にコロナ禍で、この3カ月間冬眠をしていた僕ですけれど、急に来たらこのような大役を仰せつかりまして、諸先輩



の中で、中締めのご挨拶をさせていただくことをお許し願いたいと思います。

締めと言えば皆さん期待していますよね。「お元気ですか皆さん！ 元気があればガバナーになれる。皆さんガバナーを目指して頑張りましょう」。

僕の話は長いですから皆さんお付き合い願いたいと思いますけれど、先ほど吉田直前ガバナーが本当に嬉しい話をしてくれました、「ガバナーになる権利は」と。小船井さんの提案がありましたけれど、地区幹事をしないとイケないと思っていました。だから木下さんしかいないと思っていました。けれど、会長もできる、

俺にもチャンスあると思いました。皆さんにもチャンスがあると思いました。

けれど、残念ながら12年後だと僕は67歳なので、ちょっとダメだと思いました。唯一、いけるのは司会をしている佐藤君が今後頑張って早く会長になってもらって12年後にガバナーになってもらいたいのので、皆さんと釧路クラブで支えたいと思います。その時には多分釧路クラブの会場はオクトンの商品でいっぱいになっていると、そういう会長になっていると思います。

本日は、『ガバナー事務所の慰労会』です。吉田潤司直前ガバナー、ガバナーノミニ・デジグネートからいうと3年間、本当にお疲れさまでした。67地区を回ることは本当に大変だったと思います。そのパワー、われわれがクラブを支えたこともありますけれど、やはり潤司さんのパワーがわれわれを支えてくれたと思うのです。今後、清水パストガバナー、小船井パストガバナーと一緒にこの2500地区の発展のためにご尽力いただければと思います。

そして、木下さん、樋口さん本当にお疲れさまでございました。いろいろゴチャゴチャありましたけれど、それはそれで置いて、今後もこのクラブのために、地区のために頑張ってもらいたいと思います。

そして、三ツ石さん、本当にお疲れさまでございました。いつも事務局に行ったら「カタカタカタッ」と自分が喋る以上にパソコンを打っている三ツ石の姿が浮かびます。本当に仕事が早くて素晴らしかったです。われわれのクラブは、青島さんという素晴らしい事務局員もいましたし、地区は三ツ石さんという素晴らしい事務局員がいたことで、本当に良かったと思います。ありがとうございます。今後どこで会っても「ヤー」と言おう。見つけた時には「オイ」と言おう。遠い時には手を振り合うことを皆さんでやってもらいたいと思います。

今後、われわれクラブはみんなの力を合わせて発展をしていくとともに、12年後のガバナーには誰がなるか、みんな予想でやっていければと思います。

それでは皆さん、3年間のガバナー事務局、お疲れさまでした、という気持ちを込めて、そして三ツ石さん、頑張ってもらいたいということと、われわれ釧路ロータリークラブの益々の発展のためにとうことで、3本で締めたいと思います。ご唱和よろしくお願ひいたします。

本日のニコニコ献金

- 舟木 博君 孫が囲碁の大会で優勝しました。
- 樋口 貴広君 これまでの皆様のご協力に感謝します。
- 邵 龍珍君 舟木年度、初めての出席で、ニコニコ。

今年度累計 147,000 円